

ヒナイ川・西田川周辺国有林の利用実態調査

九州森林管理局西表森林環境保全ふれあいセンター 佐渡 保信

A survey on how tourist use and effect national forest along the Hinai and the Nishida rivers, Iriomote Island.

Yasunobu SAWATARI (Iriomote Forest Environmental Conservation Center)

1. 調査の経緯・目的

ここ数年来、エコツーリズム・ブームと NHK 朝ドラマ「ちゅらさん」人気により、沖縄県の八重山地域への旅行者数が急激に増加した。西表島もその例に漏れず、国有林を利用した自然体験型ツアー等を実施する観光業者や、ツアーに参加する観光客が急増している。(写真1)

観光シーズンには、これまでほとんど入り込み者のなかった地域にも多くのツアーが訪れるようになり、特に沖縄県最大の落差を誇るピナイサーラの滝を擁するヒナイ川周辺では、脆弱な中小河川の生態系等、自然環境に影響を及ぼしているのではないかと懸念されている。



写真1 ピナイサーラの滝で楽しむツアー客

しかし、その利用実態やツアーの内容については、ツアー実施業者数が多くしかも個人的に行っている業者が大半を占めることから、正確には把握されていなかった。

こうしたことから、ヒナイ川周辺の国有林で行われている自然体験型ツアー等の実態を把握することを目的とし、調査を行うこととした。

2. 調査の方法

調査は以下に示すとおり実施した。

1) 調査地

- (1) ヒナイ川： カヌー係留地点
- (2) 西田川： 西田川の滝

2) 調査期間・頻度

- (1) 調査期間 2005年8月～2006年7月
- (2) 調査頻度 ① ヒナイ川： 8～9月 1週間に1回程度、10～7月 1月に1回
② 西田川： 8～9月 2週間に1回程度、10～7月 1月に1回

3) 調査者・調査内容

- (1) 調査者 西表森林環境保全ふれあいセンター職員

(2) 調査内容

- ① ヒナイ川 : 係留地点に係留されているカヌーの艇数調査
自然体験型ツアーのガイド等に対する聞き取り調査
- ② 西田川 : 自然体験型ツアーのガイド等に対する聞き取り調査

(3) 聞き取り調査項目

- ① ツアー業者名
- ② ツアーの種類 (以下の2者択一) ・ 半日ツアー ・ 1日ツアー
- ③ ツアーのルート (以下の項目から択一する。以下同)
 - ・ ピナイサーラの滝壺 ・ ピナイサーラ滝上下 ・ ピナイサーラの滝壺 + α ・ ピナイサーラ滝上下 + α
 - ・ 西田川の滝 ・ 西田川の滝 + α
- ④ 出発地 ・ マーレー川 ・ 海中道路 ・ 船浦港 ・ 西田川
- ⑤ 使用カヌーの乗艇定員別艇数 ・ 1人乗り ・ 2人乗り ・ 3人乗り以上
- ⑥ ガイド数
- ⑦ ツアー参加者数 : 男女別
: 居住地別 (国外、県外、八重山地域を除く県内、八重山地域)
- ⑧ その他

3. 調査結果

1) 調査結果概要

2005年8月から2006年7月までの1年間に、ヒナイ川で17回、西田川で14回の計31回、調査を実施した。

ヒナイ川では、234カヌーツアー(1,225名)、レンタルカヌーによる39パーティー(123名)、徒歩による13パーティー(37名)、計286パーティー(1,385名)の入林が、西田川では、19カヌーツアー(107名)、レンタルカヌーによる2パーティー(10名)、計21パーティー(117名)の入林が確認された。(表1 ヒナイ川周辺国有林の実態調査集計結果概要)

2) ヒナイ川周辺の利用状況

ヒナイ川について見てみると、季節では、ゴールデンウィーク、7～9月の夏休みシーズンに特に利用者が多く、1日あたり100艇近いカヌー、百数十名の入林が認められた。一方、天候の不安定な冬の季節には、利用者数は激減した。

また、入林形態では、ガイドが同行・案内するツアー(カヌーツアー)によるものが約9割をしめ、レンタルカヌーによる入林は1割弱、徒歩により入林する者は希であった。

乗艇人数別のカヌーの利用状況は、1人乗りカヤックが約7割をしめ、2人乗りカヤックが3割弱、3人乗り以上のカヌー(カナディアンカヌー)も3%ほど見られた。(図1)

3) ヒナイ川でのカヌーツアー

ヒナイ川で実施されているカヌーツアーの目的地は、沖縄県最大のピナイサーラの滝であるが、滝壺のみ訪れるツアーが約5割、滝の上と滝壺だけを訪れるツアーが3分の1強、滝壺とその他(例えば西田川)を訪れるツアーが1割強、滝の上と滝壺に加えほかの場所も訪れるという欲張りツアーも若干だが存在した。滝壺だけを訪れるツアーの場合、その大部分が半日コースのツアーであった。

ツアーの出発地を見ると、ヒナイ川に隣接し潮の干満の影響をあまり受けない「マーレー川カヌー置場」を出発地とするものが4分の3強をしめ、干潮時には航行が不能となる「海中道路東端」と「船浦港」からのツアーは、それぞれ1割程度であった。

1 ツアーあたりの参加者数では、2名の参加者のツアーが約4分の1をしめ最も多かったが、特別な傾向は見られなかった。なお、当地域を利用する事業者を構成メンバーとする西表島カヌー組合では、自然環境への負荷を軽減することを目的とし、1 ツアーあたりのツアー客数を8名以下とする自主ルールを定めており、この調査においても参加者数9名以上のツアーは確認されなかった。

ツアー参加者の居住地を見ると、沖縄県外居住者が大部分をしめ、沖縄県内から参加している者は極めて希であった。

また、参加者の男女比は、男性43%に対し女性57%であり、女性の参加者の方が多い結果となった。(図2)

4) ヒナイ川カヌー係留地点でのカヌー係留数の時刻変化

ピナイサーラの滝に向かうためカヌーを降りる「ヒナイ川カヌー係留地点」では、ツアーが訪れ出す10時前後から、ツアーが終わる午後4時過ぎまで、カヌーが係留されている。

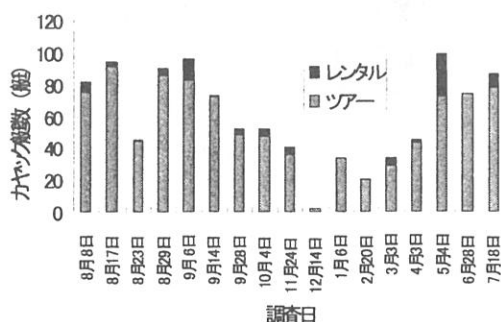
係留数がピークとなるのは正午前後でこの時刻は、1日ツアーに加え、午前中早い時間帯からの半日ツアーと、遅めの半日ツアーが重なる時間帯である。特にゴールデンウィークや夏のシーズン中には、一度に100艇近いカヌーがヒナイ川の川面を埋め、川の中につかりながら乗降するツアー参加者も多く見られた。(図3)



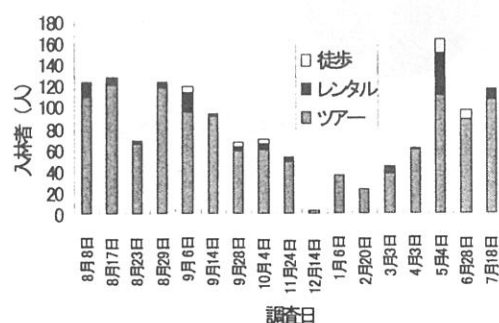
写真2 ヒナイ川カヤック係留状況

この1年にわたる調査により、ヒナイ川・西田川周辺国有林の利用の実態を、把握することができた。

この調査結果に加えて、2005年に行った「国有林の適正な利用のためのルールづくり」への取組み(シンポジウムの開催、検討委員会の設置等)の中で頂いたご意見等を十分踏まえ、今年度は、西表島カヌー組合を中心とした「利用のためのルールづくり」を支援していくとともに、自然環境への負荷を軽減するための施設整備についても、関係機関・団体にはたらきかけを行っていくこととしたい。

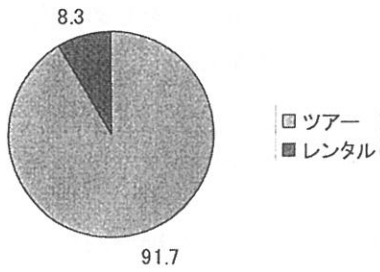


調査日別カヌー数 (艇)

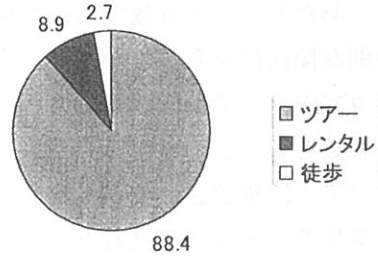


調査日別入林者数 (人)

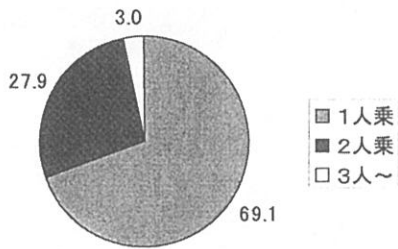
(注) 8月23日の調査は、12時15分まで。



ツアー、レンタル別 カヌー数 (%)

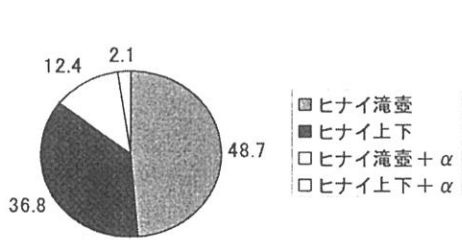


ツアー、レンタル、徒歩別 入林者数 (%)
(ガイド含む)

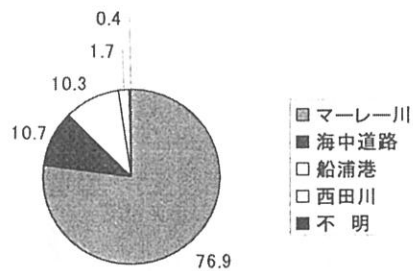


カヌーの乗艇人数別割合 (%)
(ツアー・レンタル)

図1 ヒナイ川カヌー係留地点での調査結果1 (対象：ツアー、レンタル、徒歩)



ツアーの目的地別割合 (%)



ツアーの出発地別割合 (%)

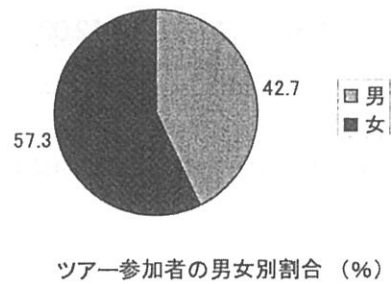
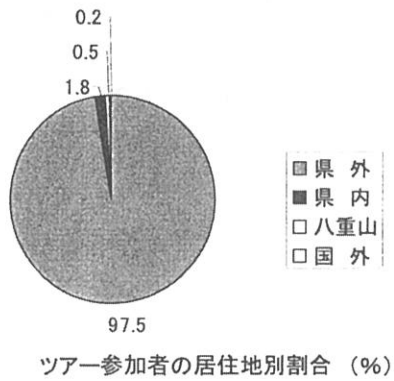
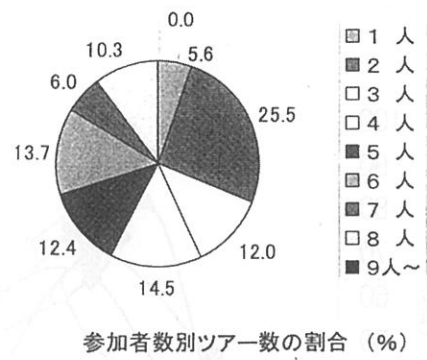
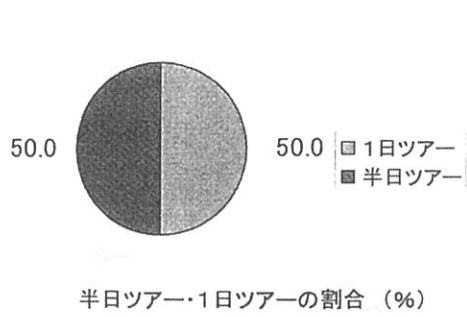


図2 ヒナイ川カヌー係留地点での調査結果2 (対象：ツアー)

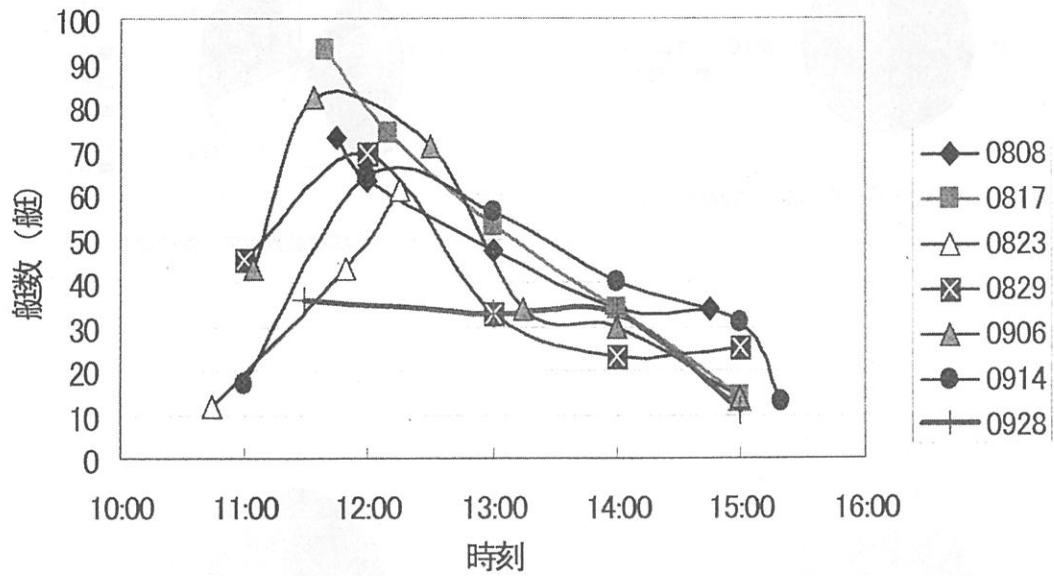


図3-1 カヤック係留数の変化 (ヒナイ川2005年8月~9月)

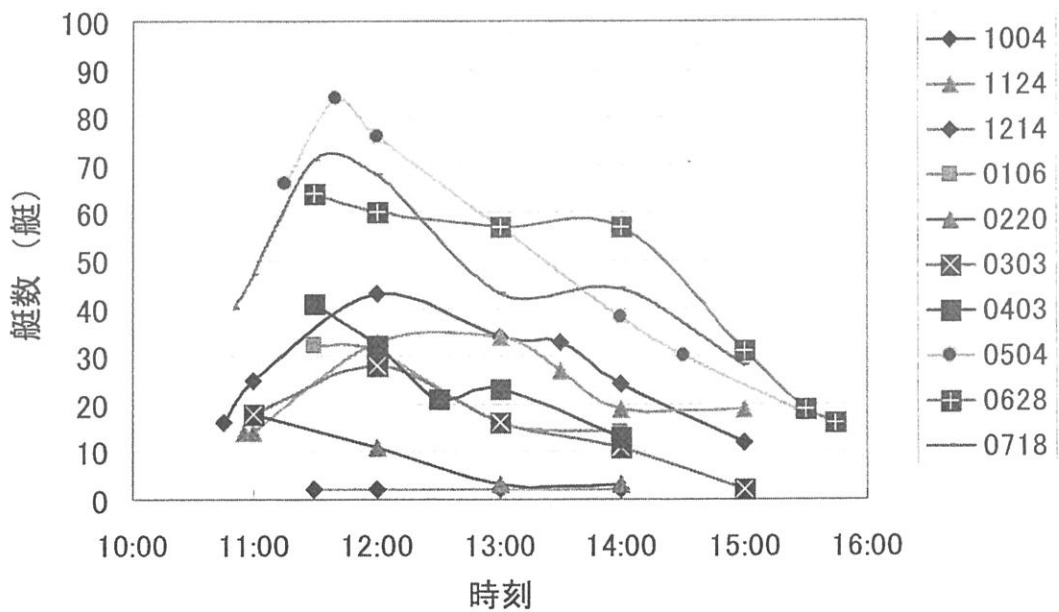


図3-2 カヤック係留数の変化 (ヒナイ川2005年10月~2006年7月)